

戦時中の国家公務員(その9)

戦時中の大蔵省(現財務省)

— 戦費調達のために増税

1937年に始まった中国侵略に伴う戦費調達のために、臨時増税が繰り返され、税制は混乱しました。1940年の税制改革で戦時税制が確立され、太平洋戦争に突入するやまた増税が繰り返されました(右表)。しかし、租税収入は、1945年で国の歳出(一般会計歳出+臨時軍事費)に対しわずか10.1%に過ぎませんでした。国債の乱発です。

戦費のための増税(百万円)

	1937年	1940年	1944年
直接税	91	557	1,534
間接税	10	171	846
その他	—	20	121
計	101	748	2,501

戦争遂行による国民の負担はすさまじいものでした。ちなみに、間接税の中心の酒税でみると、1940年の一升70銭が、1945年には12円45銭に跳ね上がりました。同時期の物価騰貴2倍に比べても異常です。戦時国債は、戦後のハイパーインフレで紙くず同然になりました。

日本国憲法と財政民主主義

戦後、日本国憲法制定によって、国の財政を処理する権限を政府から国会に移行させました。予算制定に「国民参加」を予定したのです。さらに、新憲法の下で財政法が定められ、国債発行及び借入金を原則禁止しま

した。ここに憲法の平和主義が生きているのですが、その後の歴史はこれに逆行して、国債が復活して増発が繰り返されています。

また、国債の日銀引受けが禁止されたはずが、アベノミクスの下で完全復活しています。

戦争と職員の疲弊

戦時には、「贅沢は敵だ」「欲しがりません勝つまでは」などのスローガンが叫ばれました。「皇国納税理念」の下で、不服申立にきた納税者を中庭に集めて「非国民」と一括して追い返したという話が語り継がれています。増税と新税の下、国民は疲弊していました。

戦費調達のための増税は、職員への激しい労働強化を伴いました。「減私奉公」と「清貧」の名による耐乏生活が要求されました。勅任官、奏任官、判任官という身分制度の外に、嘱託や臨時雇用という「非正規職員」が定員の1.6倍以上存在しました。低賃金と労働過重に見切りをつけて民間に移る職員、さらには兵隊に応召される職員が続き、残された職員への負担増は過酷なものになりました。戦時には、「穴埋め」として主婦が動員されましたが、終戦で復員が始まると多くが解雇されたと言われています。戦後、大蔵省内に労働組合が相次いで結成される背景には、こうした現実があったのです。



1939年竣工の現財務省の建物だが、4階部分の底には爆撃に備えて鉄板が入っている

日本国家公務員労働組合連合会

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-17-14 西新橋エクセルアネックス3階 電話：03-3502-6363 / ファクス：03-3502-6362

ホームページ
国公労連
検索
2016年5月発行



香川県国公のみなさん

国公労連職場討議資料「憲法 vs. 戦争」No.9

安倍首相は戦争法成立後、「国民の皆さまに誠実に粘り強く説明を行っていく考えである」と表明していたにもかかわらず、現在行われている第190通常国会でも、まともな説明もありません。さらに「自分が内閣総理大臣の任期にあるうちに、憲法改正を実現したい」と述べ、憲法99条に反し任期中の改憲に強い執念を見せ、「戦争する国」づくりにもけ暴走をつづけています。

一方で、安倍政権の暴走政治にストップをかけるため、「戦争法廃止、安倍政権NO、民主主義・立憲主義を取り戻す」運動が全国各地で波状的に展開されています。

5月3日、全国各地でも多彩な憲法集会が開催され、東京・江東で開催された憲法集会には5万人が集まり、4野党党首と一緒に「安倍政権はただちに退陣」「戦争法はいますぐ廃止」と声をあげました。また、戦争法廃止にむけてとりくんでいる「2000万署名」も1200万人を突破しています。

こうした運動が、戦争法廃止と集団的自衛権行使容認の「閣議決定」の撤回を共通目標とし、国政選挙で最大限の協力を行うことなどを5野党(現在は4野党)の党首で合意させる到達点をつくりだし、憲法改正について「必要ない」とする世論も増加させています。

憲法に関する世論調査	NHK	読売	朝日	毎日
憲法改正の必要ある	27% (28%)	49% (51%)	43% (37%)	42% (45%)
憲法改正の必要ない	31% (25%)	50% (46%)	55% (48%)	42% (43%)

このように私たちの運動が情勢に変化をもたらしていることを確信し、戦争法廃止・改憲反対の世論をさらに広げ、「2000万署名」などの成功にむけて「まもろう憲法・国公大運動」をさらに推進していきましょう。

憲法 vs. WAR!

憲法の戦争

再び戦争の奉仕者にならない